

# 地区集会で出された意見まとめ

## － もくじ －

(1) 学校の規模について	2
① 大規模校のメリット	2
② 小規模校のメリット	3
(2) 学校の形態や学級編制について	5
① 義務教育学校	5
② 複式学級	5
③ 組合立学校	5
④ その他の学校の形態	6
(3) 統合する場合の学校施設について	8
① 新たな学校の校舎やその所在	8
② 既存の学校施設	9
(4) 教育の内容について	9
(5) 登下校について	11
(6) 地域と学校のつながりについて	12
① 地域に根差した学校	12
② 揖斐川町への思いの醸成	14
③ 町の伝統や文化	16
(7) 支援が必要な児童生徒について	17
(8) 幼児教育について	18
(9) 子どもの生活環境について	18
(10) 今後の検討について	19
① 検討の方向性	19
② 情報提供	21
③ 意見の聴取	22
④ 審議スケジュール	23
(11) 地区集会について	24
(12) その他	24
① 少子化、人口減少	24
② 町の取り組み	25
③ まちおこし	26

## (1) 学校の規模について

### ① 大規模校のメリット

- 大野町が小学校と中学校をそれぞれ1つに統合するという方向で動き始めたと聞いている。多額の費用や様々な問題に関わるが、揖斐川町もこれだけ少子化が進んでいる中では統合という方向に進まざるを得ないと思う。私は自身が移住者ということもあり、人口減少を少しでも抑えるためには流出を抑える以上に移住者を増やす必要があると考えているので、そういう観点では学校を1つにまとめて大きな学校にし、スクールバス等で送迎するという先進的な動きをすることで、移住者へのPRになるのではないかと。(揖斐地区)
- そもそも子どもたちに義務教育の期間に身につけてほしいことは何か、という観点から考えていかなければいけないと思う。それには「学力」と、大人になって社会に出た時に一人だけで誰とも関わらずに生きていくことはできないので、そういった意味では「社会性」ということが挙げられる。そのことから考えると、あまりにも少人数になってしまうことには問題があるのではないかと。(揖斐地区)
- あまりに小規模では社会性の確立は難しいという問題もある。全体の予算という視点でも、学校数がたくさんあればそれだけ費用が必要になるということになるため、そのあたりの兼ね合いが非常に難しいと感じている。(揖斐地区)
- 先日、今の子どもたちは幼稚園から中学校までずっと同じメンバーで成長するので、自分の中で体育や学力に関する立ち位置を決めてしまい、向上心がなくなってしまうという話のある保護者の方から聞いた。そういうこともあるため、クラス替えがあるに越したことはない、というように言われていた。(揖斐地区)
- 今の人口を考えると、1校ずつにするしか仕方がないのではないかと。北方小学校の中で同級生が2人だけであれば、同窓会をやる意味がない。「同級生は多い方がよい」というのが私の一番の持論である。(北方地区)
- 私も複数の学級がある環境で育ってきたが、そうしたたくさんの生徒の中で揉まれるという経験は、社会に出るうえで非常に重要ではないかと思っている。私の孫は岐阜市の大規模校に通っているが、その運動会を見たところ北方小学校のものとはまったく雰囲気違っており、子どもたちが一体となる姿、そしてお互いに切磋琢磨している姿を見ると、やはり社会性の向上という面でも教育が果たすべき役割があるのではないかと考える。(北方地区)
- 個人的には早く統合した方がよいと考える。私の子どもは小学校に通っているが、先生が何らかの理由でお休みされると代わりの先生がなかなかいらっしやらないということも聞いているし、1クラスに数人しかいない環境が続くことはどうなのだろうかという思いもある。(清水地区)
- 揖斐川町の昨年の出生数は50人程度であり、「規模」という言葉の捉え方の問題はあると思う。例えば、本当に数人しかいないような規模であればクラス替えができないという問題があり、クラス替えを経験することは刺激にもなり成長にもつながる部分があるので、それはそれで必要なことだと感じている。(清水地区)

○私は統合に反対である。谷汲が好きでここにいるので、谷汲から学校を取り上げないでくれと声を大にして言いたい。ただ、先日小学校の共同作業の際に保護者の方に、統合に賛成である、大きい規模の学校がよいと言われた。一人のご意見は、「好き好んでこんなところにいるわけではないので、もう少し大きいよい学校にしてくれ」と言いたいのだろう、と受け止めた。もう一人のご意見は、「部活動ができなくなる、今ももうできていない」というものだったが、部活動は親が子どもの放課後の時間の責任を学校にすべて押しつけているようなものであり、本来子どもの世話をするのは親の責任でもある。私は教師として勤めていたこともあり、「教師が限度を超えた労働をすることで成り立ってきた今の教育は考え直す必要がある。部活動は親が他の地域まで送迎するか、今町が進めている地域のスポーツクラブとの連携の中で取り組めばよいことであり、部活動は統合に賛成する理由にならない」と伝えたら、その方は黙っていた。ただ、そうした意見を聴いて、中学校は少しずつ大人になっていく段階であり、その時に小規模校でよいのかということで、考えが変わり始めている。(谷汲地区)

○例えば今の中学3年生は10人で1クラスであり、仲良しではあるが、幼稚園から谷汲中学校までずっと同じ友達と過ごすので、その中で学力や運動能力などについて自分でレッテルを貼ってしまって、子どもたちが自分を出し切れていないところがある。また、私の子どもが中学1年生の時にクラスに転校生が来たが、結局馴染めず、家の中ではよく話をする子だったようだが、学校では卒業するまで一言も話ができなかった。ただ、大垣市の高校に入学してからは人が変わったようになって、私の子どもも話ができるようになったということだった。子どもに何も問題意識がなければよいが、いじめにあったり過ごしづらさを感じたりしている子が一人でもいるのであれば、大人数であれば逃げ道もあるし、違った環境もあるのではないかと思う。例えば瑞穂市では、いじめがあった場合などはどの小学校にも通うことができるようになるというところを聞いている。過ごしづらさを感じると不登校などにもつながるし、やはり学校が楽しくて全員で学び合えるというところが教育の一番の原点だと思うので、大勢の中で切磋琢磨しながら、子どもがもっと自分を見つけられるような環境を与えていくことも大事なのではないかと感じている。(谷汲地区)

○様々な多くの人の中で学び、揉まれた方が子どもたちにもよいのではないか。(谷汲地区)

○地域の方から、今の子どもたちは昔の子に比べて基本的な運動動作が下手になったのではないか、という話をされた。そのことから、子どもが少ないと運動能力が落ちたり、遊び方がわからないまま大きくなっていったりということがあるのではないか、子どもが多ければ多いほど子どもの学び方も変わってくるのではないかと感じた。(谷汲地区)

## ② 小規模校のメリット

○現状の子ども的人数だけで考えるならば1校でよいということになるが、小学校や中学校は地域の防災拠点という側面もある。また、どの学校も150年ほどの歴史があり、地域住民にとっては愛着のある場所であるため、感情的になかなか納得できない人も多いのではないか。(揖斐地区)

- 我々はどちらかという子どもの数が少ない地域に住んでいるため、学校についても統合して児童生徒数を増やした方がよいという話が出てくるが、子どもの数が多いところからすると、小規模校は先生一人に対して子どもの数が少ないために手厚く指導していただけないという面もあるとのことだった。そういう話を聞くと、小規模校が必ずしも悪いわけではないのではないかと思われる。（揖斐地区）
- 幼稚園からずっと同じメンバーと一緒に成長していることによって、自然との中でそれぞれの立ち位置や能力に固定観念をもってしまう可能性はある。一方で、物心ついた頃から一緒にいるために、性別の境なく非常に仲がよいという面もある。私は名古屋出身だが、小学校も中学校も揖斐川町より大規模でクラス替えもあったため、友達はたくさん増えたとし、クラス替えの際に新しく交流をしなければいけないという意味ではよいことだったと思っている。一方で、3年生くらいから男女を意識し始めて、異性同士で遊びづらい雰囲気もあったので、そういった現象が起きていないクラス替えのない今の環境もある意味ではよいと思っている。いずれもよい面と悪い面があるため、普段は少ない学級で過ごして、時々集まって大規模な活動を行うという方式ができるとういのではないか。（揖斐地区）
- これは教育とは切り離して考えなければいけない問題ではあるが、今ある小学校や中学校は所在する小学校区における防災拠点になっている。このように、教育だけではなく地域に根差した学校という側面から統合しない方がよいという意見もあり得る。（北方地区）
- 中学生の子どもについて、私の子どもの場合は町内の公立中学校ではなく私立のところに通っている。なぜそうしたかと言うと、少し乱暴な言い方になるが、公立中学校は自動的に入ることができる学校であるため、落ち着きがない子からとても勉強ができる子まで大きな幅がある。そのため、私の子どもの場合は集中して勉強するのに少し難しい環境だという思いがあったため、少人数であることが特徴の町外の私立中学校に通うことにした。スクールバスで通っており、もっと遠方から通う子どもだとさらに早い時間に家を出ている場合もあるが、私の子どもの場合は家からバス停まで20分、バスで学校まで1時間ほどかかるため、学校に8時15分に着くためには余裕をもって家を6時半に出なければいけない。それでも、1学年50人の2クラス編制で、落ち着いた環境で学習できているため、小規模であることは決して悪いことばかりではないと思う。（清水地区）
- 1つ目に、なぜ統合という方向だけに視点がいつてしまうのか。同年代の子どもたちとの交流や社会性といった点では課題はあるかもしれないが、そういった小さな学校の中で育まれる力もある。例えば坂内小中学校の場合で考えると、実際に多くの子どもたちが高校に進学していたという点で学力の保障はされており、また地域が非常に学校を大事にしている、成長保証と言えるほどに子どもたちの社会性というものに苦心していたので、子どもたちはすくすくと育っていた。また、先生たちについて考えても、例えば部活動が1つしかないということなどにより時間的なゆとりが生まれ、その中で子どもたちと向き合う時間を多く確保できていた。文部科学省や県の教育委員会で定められた基準があるため、町単独で単純に決められるものではないと思うが、統合を検討するほどの小規模校にあるよさというものも考える必要がある。（脛永地区）

- 私の子どもは今小学校に通っているが、少人数であることが逆によいと思っている。よい点として、丁寧にみてもらえているという感覚があることやふるさと学習に力を入れてくださっていること、他の自治体ではなかなかないであろうホームステイなどがあることに加え、子ども関係の制度も非常に充実していることもあるので、むしろ少人数であること自体がよい面もありうるのではないかと思っている。（谷汲地区）
- 谷汲小学校は少人数で温かい環境であり、校舎も素敵で、子どもたちは温もりを感じながら、地域の人と関わってすくすくと心豊かに育っており、それはとてもよいことだと感じている。（谷汲地区）

## (2) 学校の形態や学級編制について

### ① 義務教育学校

- 北方町に北方学園構想というものがあると思うが、それは小学校から中学校まで一貫校で、中学生を7～9年生と呼んでいるということを知り、すごく魅力を感じている。低学年の子も高学年の子を見て魅力的に思えたり目標を持てたりするし、高学年の子も低学年の子を見て心がほぐれて、いじめなどの様々な問題が起きにくいということもあるのではないか。広い視野で見た時にはそういう工夫もよいと思うので、今の小学校や幼稚園の先生方、保護者の皆様も寄り添ってくださるととても満足しているが、そうした様々な工夫を考えることでより住みやすい揖斐川町になっていくと考える。（大和地区）
- 今の谷汲小学校・中学校の規模で、義務教育学校とすることはできないか。（谷汲地区）
- 実際に北方町や大垣市の上石津地区でも立ち上げられている義務教育学校について、様々なメリットやデメリットがあると思うが、実際に立ち上げられているところから学びつつ、その形式を検討事項の一つとして挙げていただきたい。（小島地区）

### ② 複式学級

- 教育の密度という話で考えると、確かに先生が2学年を同時に教えるというスキルは必要だが、例えば複式学級で2学年の子どもの合計が10人のクラスの場合、1人あたりに先生が接することができる密度は逆に高くなるのではないか。やり方次第では、複式学級で教える時間が薄くなるのではなく、むしろ濃くすることもできるのではないかと考える。（揖斐地区）
- 複式学級について、実は違う学年の授業を一緒に見られることは子どもにとって楽しいのではないか。また、子どもの可能性を広げることもあり得るのではないか。（谷汲地区）

### ③ 組合立学校

- 養基小学校の形態である「組合立」というものを何らかの方法で解消は図れないのか、ということについてもよく検討していただきたい。（脛永地区）

- 私の子どもが養基小学校を卒業する時も「池田中学校に行きたい」と泣きながら懇願された記憶がある。私の子どもの場合には当時沓井の子どもと仲がよかったということや、池田町のサッカークラブに入っていたということがあったからだと思うが、恐らく今養基小学校に通っている子どもも将来的には中学校で分かれることになり、本当に悲しい思いをする児童もいると思われる。そういった観点では、脛永地区の子どもは無条件で養基小学校に通うのではなく、早期の段階で他の小学校に行く選択肢を用意してもよいのではないか。もしくは、非常に難しいことだと思うが、脛永地区の子どもも池田中学校に通うことができるようにならないか、と考えている。そういったアンケートも未就学児の保護者の方にされてもよいのではないかと思うし、小学校がもしも統合されれば揖斐川町立の学校に通うことになると思うので、特に現役の保護者の方が納得できるような結論を出していただきたい。（脛永地区）
- 養基小学校は「池田町にもつかず揖斐川町にもつかず」となっている。例えば、揖斐川町に大雨警報が出た場合、揖斐川町の他の学校が休みになっても養基小学校は通常どおり授業をすることになる。これは養基小学校が池田町内にあり、池田町にはアメダスがない関係で大雨警報が出ていないことが多いからである。一方で、池田町で水位が一定以上になった時には、養基小学校が休みになったこともあった。以前も養基小学校の教育長に伝えたが、今も変わっていないと思うためこの問題も解決してもらいたいし、どっちつかずになってはいけなないので、池田町、揖斐川町、養基小学校で話し合っていていただいて何らかの統一見解をもってもらった方がよいのではないか。統合の話以前に、「養基小学校が2つに分かれるのではないか」など様々なことを考える方もいて、やはり不安があるので、両教育委員会教育長の間で考えていただきたい。（脛永地区）
- 警報時の対応については昨年度から学校運営協議会でも話題になっており、子どもたちの安全を第一に考えてほしいというご意見をいただいて、組合と各町の教育委員会へ意見を提出した。最終的には校長が判断すればよいということにまとまったので、今年度も1回、池田町に警報が出ておらず揖斐川町に出ているという時に休校にしたことがあった。現場判断をすることも組合立として大事だという意見もいただいているので、少しずつではあるが皆様のご意見をいただいて改善していきたいと思う。（脛永地区）

#### ④ その他の学校の形態

- 学校を統合して大きな学校であることを目玉にするのもよいと言ったが、小さいが故のメリットもあるので、それを前面に打ち出して他市町村にはないスタイルとして発信してもよいと考える。あえて小規模のまま統合せず、手厚い教員の配置によって学力を向上させる。さらに、社会性の向上については時々町の児童生徒が全員集まってチームならではの取り組みを行う、というような特殊なことを考えてもよい。（揖斐地区）
- 山県市では、議論を重ねた結果「山県方式」という統合しない形式をとっている。なぜそのようになったかという、議論の過程の中で、小規模校と小規模校を統合しても1クラスにしかならず、先生の人数も統合することによって減るという問題が出されたため、どう解消するかを検討した結果統合しないことを選択した。この方式では、例えば体育など

特定の授業はバスで集まって実施したり、移動時に朝の会をバスの中で行ったりしている。（揖斐地区）

- 現状の話になるが、今は運動会などがあまりにも小規模になっており、子どもたちがかわいそうである。また、修学旅行なども学校単位では規模が小さくなっており、町費で負担していることを考えると費用面では学校ごとの差がないはずなので、そうした行事のうち可能なものについては共同実施をすることができないか検討されてもよいのではないか。（清水地区）
- 資料に書かれている子どもの人数を考えると、費用面の話をしていられる状態ではない。1学年に2人という状態になってしまえば、授業ではなく個人教育の延長のようになってしまい、集団生活をするという場面がまったくなくなってしまうため、この問題は早急に考えなければいけないものだと考える。場合によっては例えば運動会を一緒に行う、あるいはICTを活用して学校間の交流を深めるような取組みをするなど、もっと友達を増やすことができるような方法を進められるとよいのではないか。（清水地区）
- 統合しない場合の教育法をICTの活用という観点から考えてみると、私自身もZoomを活用していくつか習い事をやっており、大人と子どもでの学習内容の違いもあるかもしれないが、十分勉強できている状況である。また、とある私立の学校に通っている方の話を聞くと、例えば雪が降って登校が難しい場合には、学校に行かずに中継で授業に参加できる体制をつくっている学校もあるとのことである。そうしたオンラインでの教育ばかりになってしまうと直接子どもたちが触れ合う時間を確保できなくなるが、そういうことも取り入れた教育をしていけば、ある程度離れたところにいる仲間とも連帯感をもつことができるのではないか。ICTを活用した学習を行うためには、先生のスキルや平日頃からいつでも対応できるような学校設備の充実、ICTでの学習に対応した資料の用意などが必要となり、難しい部分もあると思うが、普段オンラインで学習をしている立場としては資料が事前に配布されて共有しながら学べる環境は非常にありがたいと思っているので、今後活用していただきたい。（清水地区）
- 資料には「1学年2クラス以上あることが望ましい」という国の手引きの言葉が書かれている。このことと出生数から考えると学校を1つにした方がよいようにも思えるが、そういった人数にならないようにどうしたらよいか、ということを経験から考えられないか。例えば揖斐川町全体で1校になった場合にふるさと学習がどういったものになるのかわからないし、これまでに学校が統合された地区の現在の児童生徒数は何人なのか、子どもがいる保護者は統合されて小学校がなくなった地区に移住しようとは考えないのではないか、という思いがある。学校の配置から教育の在り方を考えるならば、例えば義務教育学校という形態もある。また、先ほどのご意見にあった瑞穂市では、恐らく学区外からでも少人数の学校に通うことができる小規模特認校という制度を使っていると思われる。そうした仕組みなどを使って小規模校も維持し、比較的大きな規模の学校と様々な面できめ細かな学びができる学校とで選べるような教育にしないといけないのではないかと考えている。（谷汲地区）

- 例えば小学1～2年生について、子どもたちの発達状況を理由に30人学級を編制している自治体もあり、県が決定するのか町で決められるのかはわからないが、独自に学級人数の設定をすることもできると思われる。学校は学力を付けるだけの場所ではなく、集団生活の中で人間性の向上や人格形成をすることが目標なので、本当に子どもたちの数が少なくなった時にはそういう点も配慮して学級編制をしていただきたい。（小島地区）
- 教員について、働き方改革の効果は出ているのか。例えば部活動の地域移行などによって、その分子どもたちの学習指導や生活指導などに充てられる時間が増えることになると思うが、それが本来教員のもつべき専門性だと思っている。子どもたちと向き合う以外の様々なことについて、必要であればそのための人員を確保し、雑務もできる限り排除していくように進めていただきたい。（小島地区）

### (3) 統合する場合の学校施設について

#### ① 新たな学校の校舎やその所在

- 統合するのであれば、既存の学校に集約するのではなく新しく校舎を建てていただきたい。使われなかった学校の子どもたちが「統合されてしまった」と思うことがないように、教育を新しく見直すのだという意気込みで校舎を建てていただき、揖斐川町の子どもたちの今後の教育施策を大きく発展させていただきたい。（北方地区）
- 小学校に通っている子どもがいる親として、複数の学年を1学級に束ねるとどうしても教育の質が下がっていくのではないかと懸念があるので、やはり学校の統合も含めてやっていかなければいけないのではないかと考えている。ただし、揖斐川町は広く、その広さに対して適切な学校の統合・配置を考えなければ、子どもたちの勉強する時間がなくなってしまうなどということが起きるため、十分配慮して進める必要があるのではないかと。（大和地区）
- 理想はできる限り町の中で、運動場の広さも確保できるように新しい校舎を建てることであり、場合によっては小学校と中学校を同じ場所につくるというようなことなども考えられると思うが、費用の問題は避けられないため、すぐに決断することは難しいのではないかと感じている。（清水地区）
- もし統合されるのであれば、学校施設を新規で立ち上げていただきたいと思っている。財政が非常に厳しいことはわかっているが、卒業生には卒業した小学校や中学校への思い入れがあるため、もし統合後に既存の施設を使うことになると、住民感情などといったところで摩擦が生まれるのではないかと考える。やはり新しく施設を立ち上げる方が住民感情として角が立たないのではないかと考えているので、学校施設の新設について検討していただくようお願いしたい。（小島地区）
- 町全体で統合するのであれば、資料をみると6年後の児童数は小島小学校が最も多いため、一番児童数が多い小島地区に新たな学校を建てるというのはどうか。地理関係など様々な問題はあると思うが、児童数が最も多いところに統合後の学校を建てるということが素直な考え方ではないかと考えている。（小島地区）

## ② 既存の学校施設

- 統合後に残された学校をいかに活用するかについて、統合の問題に注力しているうちにないがしろになってはいけないので、教育委員会に直接関係のない分野だとしても関係部局とチームとなって、それぞれの地域のために使えるようにというところも含めて進めてほしい。（北方地区）
- 清水小学校もそうだが、児童数が少ないとどうしても雑草が生い茂ってしまうため、結局地域の人がそうした手入れをする必要があるし、これは統合して学校がなくなったとしても治安維持のためにも続けなければならない。誰かが管理しなければいけないが、どうしても町も管理できない部分がある。（清水地区）
- 統合後に残される学校施設については重要な問題であり、例えば今でも長瀬小学校はそのままとっている。我々も何らかの活用をしたいとは思って考えているが、よい使い道が見つからず放置されている状態である。清水小学校についても、もし統合した場合に放置して雑草を生い茂らせているようでは何にもならず、かといって地域に管理してくれると言われても難しいため、今後どうするのかよく検討する必要がある。跡地を何かに利用してもらえればよいが、場合によっては解体して企業等に土地を譲渡することも考える必要がある。ただ、もしそうなったとしても学校には避難所としての側面もあるため、本当にそうしてよいのかということも含めて議論しなければならないと考える。（清水地区）

## (4) 教育の内容について

- 小学校や中学校の教育の中でもチームで取り組むことに注力してもらえるとよい。なかなか社会人になってからチームワークについて教育しようとしても、長年の習性は修正できない。だが、1人の優秀な人より10人の仲間の方が力を強く発揮できるため、社会人になった時のことを考えると、チームワークを重視した教育をされることがよいと考える。（揖斐地区）
- 我々の時代にはパソコンやタブレットというものはなく、就労している間に使う機会がなかった場合、今でもパソコンを使えないという人もいる。子どもの頃からタブレットを使っているということはよいことだと思う。（揖斐地区）
- 様々な活動を実施していただいているが、例えば大阪や東京の子どもたちは自分で電車に乗って通学をしているので、そういったフレキシビリティのある教育も取り入れていただけるとよい。（大和地区）
- 今の子どもたちを見ていると、もちろん私も今でも大事な友達がたくさんいるが、我々の時に比べもっと強い友達関係をもっており、そのことは大変うれしいことである。しかし、孫が小学校低学年の時に、クラブ活動の中で負けてもまったく悔しがらない姿を見て、子どもたちが井の中の蛙になっていないかということをつくづく思っていた。孫は高学年になってクラブ活動を変えたら悔しがるようになり、ありがたいことだと思つとともに、人生には「負けて悔しい気持ち」と「友人を大事にする気持ち」の2つが必要だと考えているので、そういう意味では成長してくれているのだと感じた。（大和地区）

- 今の日本の授業の形式ではただ生徒が暗記するだけになり思考力が身につかない、というようなことも言われているようなので、今後様々な面から議論をして将来の教育の在り方を考えていく必要があるのではないかと思います。このような少人数になった時のクラス編制について、場合によっては他の学年が同じクラスにいるような編制をする、あるいは授業でそのようなグループをつくる、あるいは同じ学年だけでクラス編制をするなど様々な方法があるので、世界中でされている議論について我々も調べながら、将来の子どもたちにとってよい教育方法とはどういうことかについてももう少し議論していく必要がある。まずは、最近の子どもたちを見ていると暗記中心の勉強になっているところがあると思うので、考える力を身につけられるようなものを教育に取り入れられるとよい。(清水地区)
- 愛知県在住で子どもがいる方に聞いた話では、学校で昔のように社会見学等の外の環境にふれる教育ができないことから、愛知県ではそれを家庭でできるように、出席扱いになる平日の休みを任意で3日間取ることができるとのことだった。ただ、岐阜県にはその制度がないために、土日しか子どもをどこかに連れていくことができず、歯がゆく思っている。土日に授業参観があって振替休日になる日があれば親も有休を使って出かけようという気になるが、現状それができない環境である。(清水地区)
- 大野分校に勤めていた時の話だが、赴任当初は授業がまったく成り立たなかったが、学習指導要領にただ従うのではなく個々にあった指導をしたところ、子どもたちの姿が変わり、公立高校に進学する子も出てくるようになった。学習指導要領はあくまで大綱であり、日本全体の教育に共通性をもたせるための方向性を示すものなので、定められている「教えること」という枠は大事にしつつ、もう少し幅をもって対応することは考えられないだろうかと思っている。(脛永地区)
- 忘れてはいけない視点として、少子化は学校教育の責任ではないため、統合とは別物としてこれからの揖斐川町の教育を考えるべきである、ということが言いたい。今は35人学級で編制しているということと言われたが、そこにとられる必要はない。例えば欧米先進国などでは初等教育において1学級20人ほどだと思うが、ちょうど今の揖斐川町の小学校は10~20人ほどの学級が多いので、もっと国から教育予算を出してもらおうようにしながら、そうした20人の規模でどういう教育ができるかということを考える必要があると思っている。(谷汲地区)
- 揖斐川町は給食費の無償化や修学旅行費の補助などの施策に早期に取り組んできたが、それによって揖斐川町に移住してきた保護者の方はほとんどおらず、いても人口が少ない地域に田舎を求めて来た人くらいではないかと思っている。また、先ほど説明があった町の教育の特色についても、やっていることは違っても、子どものためを思っているという点は恐らくどの地域でも同じではないか。自然がある、ということは何の地域でも聞くことであり、特有の魅力とは言えない。さらに、池田町や大野町も同じように統合に関して動いていて、恐らく同じような時期に進めることになることになると個人的には思っているが、そうすると競争になる。その場合、揖斐川町の子どもは池田町や大野町には引っ越していくが、池田町や大野町から揖斐川町にはなかなか引っ越してくれないので、その2

町と足並みを揃えているようではますます少子化が進むだけだと思っている。例えば、揖斐川町の中学校に行けばプログラミングが簡単にできるようになる、小学校に行けば英会話ができるようになる、といった他の地域に負けない、日本一であると言えるような魅力のある学校づくりを目指してほしい。学校が新しく生まれるのであればそれを打ち出す絶好の機会になるため、コミュニティ・スクールの中でもそういったことを踏まえながら進めていただくとよい。（小島地区）

- 資料の「多様な学びの場の保障」には様々な取組みが書かれているが、大人が決めた仕組みのように感じる。校則の見直しを子どもたちが主導して進めているという話をよく聞くが、やはり子どもたちの意見をもっと反映した様々な取組みが必要であり、そういった学校づくりを目指していただきたい。（小島地区）
- 資料をみると、仮に1つに統合したとしても小規模校になると思われる。そこで、小規模校は個々の児童生徒を細部まで見ていただけることや、それぞれに応じた環境をつくることができるというよさがあるため、それらをもっと生かすことができるとよい。また、それにあたっては県から配置される教員数が課題だと思うので、町単独でALTはもちろん、カウンセラーや看護師、作業療法士、金融、建設などの分野ごとの専門職も含めた様々な方に入っていただきながら、県が配置する教員数の倍程度の人数を確保し、学校の中に一つの社会をつくるイメージで進められてはどうか。さらに、聴講生として大人も一緒に授業を受ける、ということもよい刺激になる。こういった思い切ったことにぜひ取り組んでいただきたい。（小島地区）

## (5) 登下校について

- 揖斐地区でも、来年から分団が1人になってしまい、分団登校ができなくなるのでどうすればよいか、と悩まれている保護者の方がいる。いったん地域の方と相談するように伝えましたが、学校まで距離がある地区なので、登下校どちらも心配である。（揖斐地区）
- 仮に統合する場合は、子どもたちの登下校について、広い地域をバスがどのように回って送迎するのか、どの地域をバス通学にするとスムーズなのかなどといった観点からも先行きを考えておく必要がある。（揖斐地区）
- 通学時間について、今北方小学校に来ていただいている方は7時半頃には小学校近くのバス停に到着していると思うが、より小学校との距離が遠くなる場合には、朝子どもが家を出る時間の問題やスクールバスの事故の問題といったところが大きな課題になると考えている。（北方地区）
- 大野町では小学校と中学校ともに1つに統合するという話が出ており、揖斐川町も人数の関係でそういう方向性になると思うが、その場合はスクールバスを運行することになる。だが、今はスクールバスを運転することができるドライバーがいない。そうするとスクールバスを運行することができないため、統合することもできないのではないかと。今は保護者も共働きの方が多く、送迎はできない。保護者に今以上の負担をかけるような施策になってはいけない。（清水地区）

- 統合するのであればスクールバスを使うことになるので、登下校の際は今通っている小学校にまず集合する形で、しっかりと運行してもらえるのであればよいと考える。(清水地区)
- 統合する場合のスクールバスについて、どのあたりに学校ができるかはわからないが、私の子どもはまずバス通学になると思われる。今もバス通学をしていて、まだ朝は比較的余裕があるが、長瀬では朝6～7時にバスが出るところもあると聞いており、子どもたちの朝の準備を考えると、場合によっては親の負担が非常に大きくなることが考えられる。そのため、そういったバスの運行時刻や小学校の始業時間と終業時間についても考える必要がある。(谷汲地区)
- 学校を1つに統合する場合、遠方から通う子どもにどういう配慮をするのか。ただスクールバスを運行すればよい、ということではないようにも感じている。例えば山奥に住んでいる中学生について、雪の時期には学校に通えないために寮のようなものを設定しているという話を聞いたことがある。また、逆に家族全員で学校の近くに居住してもらい、現在の住居に行く必要がある時には保護者の方がそちらへ行く、という方法も可能ではないか。空き家やアパートの空室を斡旋すればできるようにも思えるので、そうした方法も考えていただくとよい。(小島地区)
- 今私が住んでいる地域には小学6年生が1人いるが、その子が卒業すると小学1年生が2人だけとなる。また、近くの地区にも子どもはおらず、少し離れた地区に1人いるだけなので、分団を組むことができなくなっている。以前は地域のサポーターの方などもいたが、少子高齢化によって務めていただける方もおらず、今は保護者の方が連れていっている。ただ、今後しばらく子どもが増える様子はないため、2人の保護者が6年間送迎を続けなければいけないという問題が起きている。そこで、春日小学校と小島小学校が統合されたことによりスクールバスが近くを通過しているのに、区長からそのバスを利用できないか提案していただいたが、「前例がない」ということで実現していただけなかった。すでに前例がない事態になっているため、そういったことについて今後話し合っていたきたい。(小島地区)

## (6) 地域と学校のつながりについて

### ① 地域に根差した学校

- 学校というものを今までの概念の中だけで考えていてよいのか。学校は同世代の子どもたちが集まる場というだけでなく、多種多様な年齢の人が集う場であり、子どもたちの力になると同時に高齢者にとってもエネルギーをもらうことが非常に多い場である。そういった家庭教育、社会教育という面からも考えると、学校やその施設・設備というものを残すという視点も見えてくるのではないか。(脛永地区)
- 小学校に関しては、揖斐川町は脛永公民館以外の公民館が小学校と一体化しているため公民館活動が活発で、子どもも公民館で育っている部分があると考えており、特にそれが顕著な小島地区は人口の減りも少ないように感じられる。そのため、本当は小学校を少な

くとも公民館単位では残してほしいが、子どもの出生数を考えると難しいと思うので、教育行政には統合を考える前に公民館に子どもたちが気楽に行くことができる環境づくりをしていただきたい。先日北方公民館の方から、今は遠方から小学校に通う子どもたちがいるため、公民館と小学校が一体となって動くことが難しくなり、混乱しているということを知った。そのあたりのことを教育行政がしっかりとスムーズに進むようにしてもらえると、この後の学校の教育を考えるやり方も進められるのではないかと。子どもたちの人数を見ると、学校統合に反対と言えない時代が来るとは思うが、それを進めなければいけない時代までに、社会教育の根幹のシステムをうまく回るようにしてほしいと強く願う。（谷汲地区）

- 学校の中で集団活動をする中で得るものもあれば、行うべき活動や学業もあると思う。だが、学校のもう一つの大事な側面として、「持続可能な社会を構築するインフラ」という面がある。これまでの町村合併や統合、さらには急激な過疎化によって地域がどんどん疲弊している中で、さらに統合が進むと疲弊がより加速し、地域のコミュニティが希薄化してしまうのではないかと心配している。こうした「持続可能な社会を構築するインフラ」という学校の意義がまだとても大きいということを見ると、今ある学校を存続させることの重要性がみえてくるのではないかと。（谷汲地区）
- 2015年に改正された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」にも、地域コミュニティの核として小規模校を残す市町村の選択が尊重される必要性について明記されているように、規模が小さくなったからといって統合に結びつけることが必ずしもよいとは限らない。どうすることがよいのかはわからないが、そうした内容が国の手引きに示されているということに尊重し、検討材料にしていきたい。（谷汲地区）
- 私は住民として、学校がなくなることは、谷汲に地域の拠点がなくなるということだと思っている。そして、それは「谷汲」という地域がなくなり、地図上にただ地名が書かれているだけのものになるということだと考えている。（谷汲地区）
- 地域の高齢者の方は私の子どもに対して非常によくしてくださるので、そういった地域の方と子どもたちがたくさん交流をできれば、「学びの質」というところも担保できるのではないかと。何も子どもだけが多くなければいけないわけではなく、子どものうちに様々な大人と接してどのように過ごしているかを見ることもよい学びだと思うので、そのように学校を地域に開いていくという方向性も検討していきたい。（谷汲地区）
- 町内の学校に勤務する中で、私が一番大切にしていたのは「地域とのつながり」で、それぞれの小学校がもつ地域とのつながりはその地域特有のものである。だが、もし今後統合する場合、その小学校に通う子どもたちにとって「地域」とはどこになるのか、誰にお願いすればよいのか、ということが大きな問題になり得る。場合によっては、小学校とのつながりの中で子どもたちと関わるのが生きがだった人の機会を奪ってしまうことや、そうしたつながりがあることを負担だと思ってしまう方にたくさんの要求が届くということも考えられる。仮に今後統合をするにしても、つながりが特定の地域だけに偏ってしまうことがないように、学校運営協議会も活用しつつ、時には広域での話し合い等も行いながら、どうやって地域が学校をサポートしていくのかという動きをつくっていただけるとよい。

また、教員としてはそれを活用させていただけるとありがたいので、検討していただきたい。（小島地区）

- 仮に1つに統合された場合、町のすべての子どもが同じ学校の子どもになるが、元々は住んでいる地区の子どもなので、それぞれの地区で支えていくことも必要なのではないかと考える。例えば、今小島地区では地域の方が学校に協力的で、様々なボランティアをしていただいたり、子どもたちもコミュニティセンターの行事にたくさん参加したりしてくれていて、学校と地域の間には良好な関係がある。こうした関係は学校が1つに統合した時にも大切で、地域の子供は地域の者で育てていくという仕組みが今後必要になると感じるため、そのことも踏まえながら審議していただきたい。（小島地区）
- 一番課題となるのは地域との関わりである。学校は地域の核であり、それを中心に動いていることが多くある。現在、小島地区では伝統文化などを通じて子どもたち同士、親同士がつながったり、そして地域の人たちとつながったりする機会を、地域づくり協議会や公民館などに年間を通じて多数つくっていただいている。これらを何とか維持できるように工夫していただきたいし、そのあたりについて審議会でも明らかにしていただきたい。この点に関しては、他の地域も同様だと思っている。（小島地区）

## ② 揖斐川町への思いの醸成

- 今各学校で取り組んでいる地域についての学びに関して、この「地域」を今の小学校区域ではなく、もう少し広い地域を自分たちの地域として我々大人も受け入れないといけないうことになる。現状、例えば揖斐地区に住んでいる我々は揖斐祭りを自分たちの祭りだと思っているが、他の地区も同じ地域の祭りだから一緒にやる、と言われると違和感があるのではないかと。だが、そうではなくて、これからの子どもたち、もし統合するのであれば住んでいる地区の住民たちも含めて、「それは自分たちのまちのことだから一緒に学ぼう」という姿勢が必要になる。（揖斐地区）
- ふるさと学習をもう少し深めてほしい。ふるさとへの誇りや愛着がなくなっていることが人口減少の要因だと感じており、ふるさとや親、親戚を大事にするという教育をしていけば愛着心が生まれて、町外に出ていく若者も減り、人口を維持できて、結果的に子どもの人数も増えてくるのではないかと考えている。（北方地区）
- 私の母校は北方小学校だが、大学は名古屋の方へ行っていた。その中で、出身について話をすると、揖斐川町のことを「谷汲山という場所がある」というような説明しかできず、深く掘り下げることができなかった。例えば学校が1つになった場合には、それによって揖斐川町の各地域の文化や観光地についてより深く幅広く学ぶことができるようになるのではないかと。（北方地区）
- 私は、やはり子どもたちは町外に出て、成長して帰ってきてくれればよいし、帰ってこなかったとしても地域に愛着をもって、町外で揖斐川町のことを宣伝してくれるのであれば、その方がよいのではないかと考えている。（北方地区）

- 「広い意味の地域として町全体のことを好きになってもらう」ということは非常によいことだと思う。ただし、私は長年地域を今の区分で捉えてきたために、他の地区のことを自分事として捉えられない感覚があり、これを変えるには大きな努力が必要だと感じている。一方で、それでも変えていかなければいけないという思いもあるし、子どもたちにはそのようにはなってほしくない、揖斐川町すべてが自分のふるさとなのだと考えてもらいたいという思いもある。なので、揖斐川町すべてを広い意味の地域として捉える教育をするためには、子どもたちにそういった教育をするだけでなく、地域の大人にもご理解をいただかないといけないというような壁があるのではないかと感じている。(北方地区)
- ふるさと学習について、以前北方小学校で北方踊りを教えるにあたり、藤橋や久瀬、坂内出身の人もいるので、太鼓踊りが他にもあるということをお話してほしいと言われたため、町の16の太鼓踊りについて話をしたところ、子どもたちにも先生方にも目を輝かせながら聞いていただけた。その後、太鼓踊りを藤橋・久瀬・坂内の子たちも含めて発表されたとのことで、こうした取組みが大事ではないかと感じた。また、芽室町への派遣研修に引率した際には、先方で揖斐川町の紹介をするにあたり、それまでの子どもたちが使った資料ではなく改めて何をするのかを考えて準備しており、これも大事なことだと感じていた。学校の統合についてどうしたらよいかということは私にはわからないが、いずれは必要なことだと思うので、ふるさと学習を大事にしつつ、統合しても各地域はそれぞれにとってのふるさとであり、また広い意味での地域である揖斐川町全域についてもふるさととして大事にしていくことが大切である。(北方地区)
- 大和公民館では、今年度から幼稚園や小学校、中学校と連携して、家庭教育に力を入れている。今は保護者の方も忙しいのでその負担を減らしつつ、学校や地域の方とつながって、将来大和地区のリーダーとして地域の方や公民館を支えてくれるような子どもたちが増えるとよいと思い活動している。今後もそういった活動を増やしていきたいと考えているので、協力をお願いしたい。(大和地区)
- 学校を統合するという話が出ている池田町や大野町は揖斐川町に比べて面積的には小さいため、その2町に比べると統合した学校の所在地やスクールバスなどの問題が出てくるが、裏返すとそれだけ各地域の暮らしの違いがあり、ふるさと学習の題材となるものが多いという強みがあるのではないかと感じている。そうした強みがある教育ができるような統合ができるとよい。(清水地区)
- 小学校のことだけではなくこの地域すべてのことと言うならば、私は子どもたちが地域を愛して居付けてくれる教育に力を入れてほしいと考える。小学校から中学校までよい子たちばかりだが、どちらかというと町外へ行ってしまいうちの子たちばかりで、なかなか戻ってこない。この脛永地区でも子どもたちに脛永愛をもってもらうために様々な工夫をしており、脛永公民館にも一生懸命がんばっていただいている。そういった中で、小学校・中学校の統合や少子化によって地域の踊りや歌、祭りといった文化がなくなってしまうのではないかと心配していて、揖斐川町の住民は誰もが同じように感じていると思う。さらに、もうすでに学校が統合してしまった地域のお祭りはどうなるのだろうか。そういうことを考えると、地域を愛する子どもたちを増やすことが教育の一環ではないかと私は

思うので、統合の有無については十分検討していただいたうえで、どうなるにしても地域の文化が残るようにするとともに、子どもたちが地域愛をもち、それによって地域に残る、あるいは遠くへ行ってもまた脛永地区や揖斐川町に戻ってくるような形の教育が必要ではないかと考えている。（脛永地区）

- 私は70歳を超えているが、小学生の頃に地域の中であったことは今でもよく覚えていて、こういったことが「ふるさと」という感覚に結びつくのだと感じる。よく「子どもは宝」という言葉が使われるが、誰にとっての宝なのか考えると、その中には「地域」が含まれるとともに、「宝」には地域の未来を担ってくれる存在という意味があると思っている。恐らく幼い頃に体験した地域の記憶があることによって、都会に出ていったとしてもいずれ戻ってきて、担い手になってくれるということがあるのではないかと考えている。そう考えると、この「地域」というものに対して小島小学校は重要な位置を占めており、同じ揖斐川町の中でも違う地区の小学校に通う場合には、この「地域」という意味合いは薄くなっていくのではないかとと思われる。そのため、可能な限り少人数で、それぞれの地域の中で育っていくという考え方もあってよいのではないかと感じている。（小島地区）

### ③ 町の伝統や文化

- 今、揖斐地区では大和地区、北方地区、春日地区の子たちが子ども歌舞伎を習っているが、揖斐地区の子は1人もいない。そういったことも考えなければいけないのではないかと。また、我々は子どもの頃から軸に関わっていたため体に馴染んでいるが、そうした関わりがないと参加してもらえなくなるため、参加機会を増やすことが一番よいのではないかと考えている。そうしたイベントの回数を増やすことが一番効果的ではあるが、祭りを複数回開催することはできないので、小学校で教える学年を5年生から3年生に引き下げるなど、早い段階で習うようにしていただくとよい。（揖斐地区）
- 例えばやまと・きたがた幼稚園について、きたがた幼稚園とやまと幼稚園が統合した頃は北方踊りを教えていたが、今はもう教えられないようになってしまった。本当は小さい頃からそういう文化に触れておくことが大事であり、地域の伝統文化についても今後非常に難しいものになるのではないかと考えている。（北方地区）
- 揖斐川町は広く、仮に小学校や中学校を1校にした場合に、学校と伝統や地域とのつながりをどのようにしていくのか、ということが大きな課題になる。それにはやはり地域の方の理解を得ることが必要であり、また各地域の伝統や文化をどのように引き継いでいくか、ということが統合を決められた場合の大きな検討事項だと考える。（北方地区）
- ふるさと学習に関連して、先日清水神社の役員の方と話した際に神社の紋の話になり、さらにそこから歴史を調べていくと、最終的に稲葉一鉄の戦国時代の鎧兜が残されているということがわかった。このこともふるさと学習の題材にしてもよいのではないかと感じると同時に、揖斐川町や清水地区にはまだまだ将来の子どもたちに伝えていくべき事柄があるのではないかと考えている。（清水地区）

○坂内小中学校について、当時は地元の高齢の方々が非常に子どもを大事にしておられたが、今はもうなくなってしまった。確かに人口が減っていくことは仕方がないことだが、ただ人数に合わせて統合するというだけではやはり地域の賛同は得られない。養基小学校に関しては150年という歴史がある。他のどの学校にも歴史はあるが、養基小学校は明治初期にできた2町の組合立という特殊な学校なので、最終的にももしも統合する場合、教育を通じて地域の伝統をどう子どもたちに託すのか、養基小学校の伝統や歴史というものをどのように残していくのかということをもまず先に打ちだしていくことが必要である。（脛永地区）

## (7) 支援が必要な児童生徒について

○支援が必要な子どもたちは揖斐川町でも実際に過去と比べると増えており、特別支援学級が必要な学校も、そういうものが必要だと思っている保護者の方も増えている。そうした親のうちの一人の本心としては、できる限りきめ細かく対応してほしい。支援が必要な、いわゆるグレーゾーンと呼ばれる子どもは一人ひとり特性が異なり、「こうすればよい」という型はないため、できるだけ小さな単位でみてほしい、というのが親としての望みである。今子どもが通っている小学校は、特別支援学級の人数もそれほど多くはなく、学校全体でもそれほど大きな学校ではないので、普通級に行く時も担任の先生はもちろん、その他の先生たちにも子どものことをよく理解していただいている。恐らく町内の小学校はどこもそうだと思うが、そういった環境だからこそ今はのびのびとよい方向に向かっていけているのではないかと思っている。（清水地区）

○私は支援が必要な児童生徒に関わっているが、その中には自閉スペクトラム症やADHDの子どももおり、その子たちは元の学校へ帰りたいたいという願いをもっている。しかし、その学校には特別支援学級（知的）はあっても特別支援学級（自閉・情緒）がなく、資料に書かれている児童生徒数や先生の数から考えると、そうした学級はすぐにはできないだろうと思われる。だが、学校が統合し規模が大きくなれば、そうした教室も設置される可能性がある。今は多いところでクラスの2～3割は支援が必要な児童生徒ではないかと言われており、そうした子どもたちのことを考えると、一概に統合を否定できないと感じている。（大和地区）

○私の子どもはADHDで、今通っている小学校の先生方にすごく支えられている。夜に子どもが暴れてしまった時などにも相談に乗ったり、家に来て落ち着かせるのを手伝ってくれたりするなど、本当に親身になって親も支えてもらえるので、子どもも毎日楽しんで学校に行っており、とてもよい環境だと思っている。上の子は自閉スペクトラム症だが、小学校でも中学校でもとてもお世話になり、安心して子育てができたので、今の時点でも安心して通える環境だと感じている。（大和地区）

○不登校について、不登校を生む背景には学校教育の枠だけでは絶対に解決できない問題があり、家庭教育、社会教育といったすべての取り巻く環境の中で考えなければいけないものである。それを踏まえると、揖斐川町が不登校の子どもたちに対してどういったスタンスで接しているのか、ということもこれからの学校教育を考えるうえで大切なことで

はないだろうか。不登校の子どもに対して、先生はどういった接し方をし、ご家庭や教育委員会はどうか支えていくのか、学校教育の中に入り切れていない子どもたちにどう対応していくのかについても検討が必要である。（脛永地区）

- 揖斐川町は特別支援学級や通級指導教室といった面ですごく充実しているが、それは少人数だからこそそういった子どもたちを見てもらえるからではないか。そのことを考えると、そういった子どもたちを見逃さないためには小規模の学校も必要なのではないか。（谷汲地区）

## (8) 幼児教育について

- 小学校や中学校の話はあったが、それならば同様に幼稚園に通う子どもたちも減ることになる。幼稚園は幼い子どもたちに関するものなので残してほしいと思うが、そうした幼稚園の体制がどうなるのかということも考えていただきたい。（小島地区）
- 小さい頃から五感を刺激することが大事だと言われており、幼児教育から学校へつなげていくというところで、幼児教育にももっと力を入れてほしいと考える。自治体の中には、3歳児から中学3年生まですべて1学級で、12学級すべてにA L Tを配置しているところもある。そうした教育の特色を出しているところもあるため、ぜひとも町の教育の特色として、幼児期から続く教育ということに力をいれていただきたいと思っている。（小島地区）

## (9) 子どもの生活環境について

- 子どもの移動の自由を考えていただきたい。歩いていけるとところに学校があればその中のコミュニティで子どもは遊べるが、バス通学の場合は自宅前のバス停でしか降りることができず、友達の家に行く場合は一度家に帰ってから送迎する必要があるため、そのことが遊ぶ約束のハードルになっている。例えば下校時だけでも、降りる場所の記録を取って途中で降車可能にすることはできないだろうか。関連して、今は個人情報保護の関係で昔の連絡網のような電話番号の一覧がないため、友達の家がわからない時に親同士で連絡をとることができない。そこで、例えばクラスで親のLINEグループをつくるなど、親同士が連携を取ることができ、かつ子どもも移動が自由にできる状態をつくることを目指してほしい。特に統合してバス通学の距離が伸びるのであれば、そういったことを考えていただきたいと思っている。（谷汲地区）
- クラブの地域移行で、全国的な話のため致し方ないことだが、うまく進んでいるか疑問に思うところが多々ある。例えば、学校を統合するのであれば「揖斐川町は地域移行せずに学校ですべて行う」ということにしていただくと、保護者としては子育てが非常にしやすくなる。もちろん先生方にも様々あることは重々承知しているが、教育と子育てを一体化しつつ特色を出していくのであればそのくらいのことをやっていただき、強くアピールしていただくと人口増加につながるのではないかと期待しているので、ぜひ検討していただけるとありがたい。（小島地区）

○バス通学になると時間がかかるため、早朝の学童保育の実施や朝食の提供に加え、さらに児童館を学校に併設するとともに休日にもスクールバスを運行し、子どもたちが一緒に勉強したり遊んだりできるようにしてはどうか。以前ある保護者の方から、「子どもたちが広い地域に点在しているため、子どもたちが遊ぶには親の送迎が必要となり、夏休みほど子どもたち同士で遊べない」ということをお聞きし、そのような弊害があるのかとショックを受けたことがある。今後もし1つに統合した場合、さらに子どもたちが広範囲から集まることになるため、ぜひ休みの期間も子どもたち同士で遊んだり勉強したりできる場があるとよい。(小島地区)

## (10) 今後の検討について

### ① 検討の方向性

- この学校の在り方を考えるうえで、何年先のことを考えればよいのか。先日県内の各市町村の将来人口の推移に関する資料を見たが、揖斐川町は25年後には人口が半減、50年後には3分の1ほどになると書かれていた。仮に統合するとしても、新しく学校を建てるならばどのような建物にするのか、それとも既存のものを使うのかによっても必要な金額は変わる。また、この先大きく人口が減少するならば、その時々によってさらに状況が変化することになるため、今の時点でどの程度先まで考えればよいのか疑問に思っている。(揖斐地区)
- 1つの方針だけで検討するのではなく、統合する地域もあれば単独で複式学級がある地域もあるというケースもあってもよいと思うので、様々なパターンで検討されるとよい。(揖斐地区)
- どの程度先のことを検討するかについては、企業経営と同様に短期・中期・長期と分けて考えてもよいのではないかと。(揖斐地区)
- 私も含め、皆様の頭の中には5～10年先のことがあると思うが、これは教育の問題であり、50年以上先にも続く問題である。50年後を考えた時には、人口減少はさらに続くので、揖斐川町に学校がない可能性もある。そういうことを考えると、これまでの統合の流れを継続することもやむを得ないのではないかと感じている。今の教育者が考えていることは間違っていないと思っているので、ぜひ1～5年後ではなく、10～20年先を見据えて検討を進めてほしい。(大和地区)
- 児童生徒数ばかり注目されているが、そもそも揖斐川町自体の人口が減っているので、今後は当然税収も減ることになる。つまり、学校施設の維持費がどんどん賸えなくなっていくことも想定されるので、町に入ってくる税収の見込みと、そのうち実際に教育予算にかけられる金額の見込みを把握したうえで計画を立てなければならない。新たな校舎を建てたいと思っても建てる予算がない、新たに建てるのであれば既存の校舎を解体する必要があるがその予算も捻出できない、となっては本末転倒である。町の税収も念頭に置かなければ、このように一生懸命議論したところで結局「絵に描いた餅」になってしまう可能性がある。(清水地区)

- 想像以上に急激に子どもの人数が減少している実態はわかったが、それに伴う教員数の減少も今後ますます進んでいくと思われる。その中で、その少ない教員を揖斐郡の3つの教育委員会が取り合うような形になってはいけないので、そうならないための簡単な解決策として、3つの教育委員会が1つになるというのはどうか。昔から「揖斐郡は一つ」という言葉があったが、ぜひ「揖斐郡の子どもは揖斐郡の先生全員で育てていく」という思いのもとで、教育委員会が1つとなって取り組んでほしい。町村合併はなかなか難しいと思うが、3つの教育委員会を1つにまとめていただくと何もかもうまくいくのではないかと考えている。（脛永地区）
- 私も3人子どもがいて、そのうちの1人は小学校に通っている。まず、資料をみて、意外と谷汲には子どもがいるのだと思ったが、確かにこれから子どもは少なくなっていくので、統合も考えなければいけないだろうと思う。私自身も子どもの時に当時の横蔵小学校に転校してきたが、同級生は3人で、複式学級だった。ただ、転校前は大規模校だったため、先生がこんなに細かく教えてくれるのか、ということに身染みて感じていた。その後、横蔵小学校が谷汲小学校に統合されバス通学になったが、その経験から小学校が変わっても子どもたちは対応できると考える。親はいじめや勉強面などで心配になるが、同級生が多くなって友達や先生とのやり取りの中で成長していくので、統合しても子どもとしては特に問題ないのではないかと考えている。（谷汲地区）
- 私は統合に賛成する立場だが、今の教育の中で学校社会に溶け込めないような子どもたちが増えているように感じており、そういった子どもたちの受け皿をつくる必要があると考えている。もし統合した場合、使用していない学校施設ができる可能性があると思われるため、そういったところに子どもたちを受け入れる受け皿をつくる、ということも非常に特色あるような学校教育ではないか。そうした小規模校の活用についても検討していただきたい。（小島地区）
- 5年ほど前には出生数が100人を切ったことについて議論していたと思うが、それが今では50人を下回っている。今後はもっと減る可能性もあると思われるが、その場合町単体で教育を賄うことは難しいと思われる。そうであるならば、どこまで広域的に考えるかは別として、揖斐郡や西濃地域といった広域での連携についても今のうちから検討すべきである。実際に中学校では部活動の広域連携を始めていることから、学校教育自体もそういったことができるのではないか。そうした広域教育への転換についても検討していただけるとありがたい。（小島地区）
- 60年ほど前に小島村が旧揖斐川町となったことから、恐らく50～60年程度の感覚で町村合併は進んでいくと思われる。また、今の揖斐川町が生まれてから20年ほど経っており、恐らくあと30年後には町全体がどうなるか、ということが議論されるかと思うが、学校についても今の揖斐川町の人口で考えるのではなく、30年後、50年後、100年後と先を見据えた形で検討していただきたい。（小島地区）
- 長期的な目線でみると、揖斐川町は高齢者が多いということもあり、将来的には今の保護者や学生といった若い世代の負担がどんどん大きくなると思われる。そういった負担という点について、何十年と先を見据えながら議論していただきたい。また、これまで区会

の中で町行政に対して様々な意見を出しても、「前例がない」ということでなかなか意見が反映されてこなかった。何らかの固定観念があるのではないかと思うが、この問題についてはすでにかなり緊急の課題だと感じるため、ぜひ前例主義や固定観念を取り払って検討していただきたいと考える。(小島地区)

- 保護者としては教育と子育ては一体化しているように思っており、我々にとってこの場は子育てをどうしていくかということだと感じているため、管轄は違うかもしれないが、教育と子育てを一体的に考えていただくとよい。(小島地区)
- 子どもの数が大きく減るために審議をしているので当然のことではあるが、ただ少人数になったから統合を考えるということではなく、揖斐川町の子どもたちのためにどうするのが一番よいのかということが審議の大元にある必要がある。もしかすると統合せずに少人数の子どもを地域全体で見守って育てた方がよいかもしれないし、一定の集団の中で互いに影響し合いながら成長できるようにするために少し大きな学校の中で力を付けさせた方がよいかもしれない。ただ、このように審議の一番の大前提には「子どものためには何がよいのか」ということがあるべきなので、様々な立場があるかもしれないが、それぞれのメリットとデメリットを考えつつ審議していただきたい。(小島地区)
- 揖斐川町の人口構成は、大野町や池田町と比べて20年先を進んでいると思われる。これは子どもの数だけではなく、いわゆる生産年齢人口も減少しており、地域を維持するのに大変な影響が出ている。その中で今回審議していただいているが、学校教育は地域、まちづくりと密接な関係があるものであり、未来への投資である。そこで、学校数や学級数に関する検討はもちろん、どういった教育を目指すのか、それにより今直面している少子化の課題に対してどう取り組んでいくのか、まさに「揖斐川町独自の教育立町」によって揖斐川町に夢と希望がもてるよう、審議会は町へ力強く答申していただきたい。(小島地区)
- 学校教育の在り方は、まさに「未来をかけた究極の地域づくり」だと考える。そこで、審議会委員の皆様には必ず住民の不安解消や課題の解決ができるようにしていただき、揖斐川町の明るい未来をつくるために、教育委員会が「日本一の教育ビジョン」を示せるよう答申していただくとともに、その答申前には答申素案をぜひ説明していただきたい。揖斐川町にどんな明るい未来が待っているのか、期待している。(小島地区)

## ② 情報提供

- シンポジウムで取り上げられる事例はいずれも大きな学校のことばかりであり、それとは異なる山県方式のような論も入れて、皆様に様々な情報を伝えたいとどうすることがよいのか選択していただかなければいけないと思っている。(揖斐地区)
- 統合のメリットやデメリットを教育委員会として我々に示していただいて、それを地域住民で検討していくことも必要ではないかと考えている。(脛永地区)
- これまでの町村合併や学校統合とは違い、こうした意見交流の場をつくっていただいていることはありがたいし、できる限り何度も機会をつくっていただきたいと思う。ただ、「統合ありきではない」とおっしゃったが、今日の説明では小規模校を維持することによ

るメリットやデメリットについても話があったものの、先日私の元に届いたアンケートに添付された資料にはなかったため、まさに統合ありきの資料だというように受け止めていた。（谷汲地区）

- まずはこういった形式があるのかということを知らないと議論できないと思っているので、シンポジウムもその一つだと思うが、県内外問わずそうした様々な事例を住民に共有する機会が多くあるとよい。（谷汲地区）
- 統合することとしないことの、それぞれのメリットとデメリットがまったくわからず判断がつかないので、そうした事例を知りたい。谷汲は、子どもは少ないと思うが、落ち着いた生活をしていると感じており、それは少人数で先生がしっかりみてくださっているからではないか。私は今のこの人数の学校に不満はないが、大規模校では社会性を育めるとは聞くもののよさがわからないため、そういうことをもう少し知ることができるとよい。（谷汲地区）

### ③ 意見の聴取

- それぞれの児童生徒のお母さんへの連絡はメールで行われていると思うが、そういったものを活用した意見聴取を行うことも一つの方法だと考える。（揖斐地区）
- 今までの統合時に、その時統合された地区の方からどのような意見があったかということや、統合して自分たちの地域にあった学校ではないところに通うことになった方々が今どのような思いでいらっしゃるか、ということは聴く必要がある。（揖斐地区）
- この場に何名のPTAの方がいらっしゃるかはわからないが、そのあたりの意見も把握しながら、町としての方針を速やかかつ正確に出されるとよい。（北方地区）
- 今日のこの場について、どの程度声かけをされたか。保護者の方が少ないように感じるが、我々は保護者の声を一番聴きたいと感じている。私は久瀬地区に住んでおり、小津小、久瀬小、久瀬中の3つの学校に携わってきた。以前の統合の際には地域住民からも寂しくなるなどといった意見が出ていたが、やはりこうした場合には保護者の方の意見が一番大切だと個人的に思っている。私もやはり一刻も早く統合に向けて検討していただきたいと考えており、その根底に保護者の方からの意見聴取があることが一番大切だと思っている。（北方地区）
- アンケートを行っているということだが、子どもは自分が本当に思っている意見をなかなか言うことができない。そのため、中学生の声を聴くと言っても、その時に中学生が本当に自分の思いを言えているのかと考えた場合に、疑問が残る。高校生くらいになると少しそうした意見が言えるようになるが、それでも聴くことは難しく、私も苦労しているところである。（谷汲地区）
- 今日のこの場でこの会が終わらないよう、ぜひボトムアップの精神でもって意見を抽出していただきたい。（谷汲地区）
- 統合により「谷汲」という地域がなくなると考えると、学校がなくなってもよいのか、地域がなくなってもよいのかということについて、谷汲に住む住民の方は皆何らかの思い

があるのではないかと考える。そうであれば、やはりこの問題は、住民全員の意見を聴いてそれを元に進めるべきだと考える。手続のことを考えて省略されているのであれば、それは方法としては速やかかもしれないが、それで谷汲が今後ますますよくなるとはとても思えない。アンケートを行うならば、子どものいないひとり暮らしのお年寄りの人の思いでさえも拾い出せるように、全員の意見を集めたうえで組み立てをしていただけないか。（谷汲地区）

- 子どもたちの意見の聴取について、かつては子ども教育委員会や中学生教育委員会なども行われていたが、やはり子どもたちはこういう場に来てなかなか意見を言いにくいだろうと思う。町長と語る会もよいとは思いますがそうではない場面で、今の小学生や中学生がどうしたらよいと思っているか、意見を丁寧に聴取していただきたい。（谷汲地区）
- 私も子どもがいる保護者であり、今日までに何人かの保護者にこの場のことについて声をかけたものの、やはりこの時間帯は外出しにくいとのことであまり来ていただけなかった。スマート連絡帳で何度か案内は来ていたため、小学校・中学校の保護者は見逃していない限り知っているのではないかと思うが、やはり時間帯の関係で来られなかった方も多くいらっしゃるのではないかと思う。今日来られなかった方々からは、「なかなかそういった集会に参加するのは難しいので、スマホなどですぐに自由に意見を言えるような環境をつくって、ぜひ様々な意見を伝えられるようにしてほしい」という意見も聞いている。（谷汲地区）

#### ④ 審議スケジュール

- 個人的には、各校区での地区集会在り次第、町としての方針を早く出すべきだと考える。いつまでもゆっくりと進めていく内容ではなく、各小学校区同士で引き合いをいつまでもしていても仕方がない。統合したからといって人口が増えるわけではないため、非常に難しいところがあると思うが、統合に向けてたとえ半歩ずつでも毎日前へ進んでいくことを肝に銘じてほしい。（北方地区）
- 中学校の部活動について、今は野球部なども遠くに行かなければできないという話であり、早く1校にした方が子どものためなのではないか。審議する段階は過ぎており、もう方向を決めた方が早いのではないかと、というのが一住民としての思いである。（北方地区）
- 揖斐川町では統合についての検討をこれからされるのだと思うが、池田町は令和13年度を目処に2校にするという形で、ある程度統合に向けて決定しているような状況である。また、大野町ももう令和13年度に学校を統合する方針である。そこで、揖斐川町としてのスケジュール感を知りたい。（脛永地区）
- 審議会には、いつ頃にどのような方向性を見出すか、という想定をある程度もっていただきたい。3年前に学校統合について教育委員会で勉強した時には、池田町や大野町もまだ動き始める段階だったが、この3年で池田町は2小1中、大野町は1小1中という一つの目処を立てている。非常に迅速な動きで、すべての住民の意見をすべて集約したものなのかはわからないが、いつまでも意見聴取ばかりしてはならないと考える。また、この

問題は住民の関心が高いものであり、多くの町議会議員の方が地区集会に参加している。そのため、どうか審議会で行われる様々な審議の経過をぜひしっかりと公開していただきたい。（谷汲地区）

- 今回の審議会の設置は、出生数が50人を切ったために急いで行われたと感じており、以前から少子化や人口減少が進んでいた中で動き始めるのが遅すぎるくらいではないか。これからどのくらいスピード感をもって進めていただけるのかと思っている。（小島地区）

## (11) 地区集会について

- 今日の地区集会に来ているのは何らかの形で教育や地域のことに関わっている方ばかりで、いわゆる一般の方がいらっしゃっていない。恐らくお母さん方は子育てが大変で来れないのだと思うが、それこそ1学年で48人しかいない令和6年度に生まれた子どものお母さん方など、将来関わることになる方たちにどれだけ来てもらえるのかということも大事なことである。まだそれだけ関心がないということだと思うので、「自分の子どもが学校に通うときの教育はどうなっているのだろう」ということを真剣に考えてもらえるような発信をしていかなければいけないのではないかと感じた。（揖斐地区）
- 案内を配布しただけで、地区集会について周知したとするのは難しいのではないかと。私も実際に忘れていて、たまたま手帳に書いていたものの、どういったものかわからず周囲と話をし思い出したという具合だった。もう少ししっかりとPRをした方がよかったと思う。（谷汲地区）
- この内容であれば子どもももっと参加してもよいのではないかと考えているが、夕食の時間等と重なって来ることができないのではないかと。シンポジウムについては学校等にも連絡して、子どもにも参加してほしいと案内してもらえるとよい。何よりの当事者は子ども本人であり、「自分が行く学校がこうなってほしい」という声は子どもたち本人からも聴けるとよいのではないかと考えている。まだ少し期間があるので、ぜひ小学1年生からすべての子どもに聴取するようお願いしたい。（谷汲地区）

## (12) その他

### ① 少子化、人口減少

- 人口の問題については、町内の空き家に移住してもらうための取組みを促進した方がよいのではないかと。若い方が移住してくれば、子どもも生まれて人口も増加すると思う。就労先が少ないために揖斐川町に住んでも近隣の市町村まで行かなければいけないという課題はあるかもしれないが、町内の企業への就職促進などといった方策を考えながら、移住を促進していくことがよいのではないかと考えている。（揖斐地区）
- 移住者を増やすことを考えた場合、特に子どもが小学生くらいのファミリー層に対しては、「小学校まで徒歩数分」という地域と「小学校まで5km」という地域だと、たとえばバスが来ることによって本質的な違いがないとしても、やはり「徒歩数分」という方が訴求力は強い。町外の人にはまずその情報が目に入ってしまうので、それ以上の魅力があっ

て、小学校までの距離についても調べてもらえて、バスが来ることまで知ってもらえるようなまちになるとよいと思う。（揖斐地区）

- 揖斐川町は子育て支援が手厚い。学校教育の在り方という論点についても少子化が大元にあると思うので、子どもが減っていく中でどうするかということと併せて、町の強をもっとPRするなど、減らないようにどうしたらよいかということの両面から考えられるとよい。（揖斐地区）
- 町内には、恐らく二世帯で住むことができない家屋が多い。そのために若い方のほとんどが町外へ出てしまい、結果として子どもも少なくなる。そういう現象がずっと起きているのではないか。（揖斐地区）
- 人口減少は仕方がないことで、今はどの家を見ても、跡を継ぐという子どもは1人もいない。近所を見ても空き家ばかりで、今後人口が、ましてや子どもが増えるということはないと思う。そのあたりを考えたうえで、取り組んでもらいたい。（北方地区）
- 今回の意見交換の中で、統合の話や子どもたちが少なくなるという話ばかり出ているが、それをただ仕方がないことだと考えるのではなく、例えば子どもを増やすことや町外に出ていけないための方法についても考える必要があるのではないか。例えば近所の方であれば、若い世代で独身の方がいるかどうかはわかる。プライバシーの問題などはあるが、そうした方への出会いを設けることやその後地域に住んでいただく方策など、そのような方向性の動きはないのか。人口が減っていくことは仕方がないが、逆に増やす方法についても何か考えていただく必要がある。（北方地区）
- ある地区では外国の方が移住されたそうで、その子どもと地域の子どもが分団でもうまくコミュニケーションを取りながら一緒に登下校しているとのことだった。こうした海外からの移住者は今後も増えるのではないかと思うが、その時にそうした海外の子を受け入れられる地域であることが大切である。そういった子どもたちの学びやそのご家族へのフォローが現状どの程度できていて、これからどの程度進めていくのかが気になっている。（小島地区）

## ② 町の取り組み

- 私は毎年、中高生海外派遣研修や小学生県外派遣研修の発表会を楽しみにしている。子どもたちの素直な生の声を聞くことができ、よかったことが伝わるので、外部講師の講演を聞くよりもよいと感じている。今年度の発表会も楽しみにしている。（揖斐地区）
- 先ほどから出ている「地域」という言葉が、小島のことを指すのかその中の17か所の地区を指すのかはわからないが、私は区長を務めており、その中で区として子どもと何かをやりたいと思っても、そのためのお金がない。町から各地区に対して、何らかの活動をする際に一定の助成をしてもらえる制度をつくっていただきたい。（小島地区）

③ まちおこし

- 少し主題と外れるが、アメリカには「マジシャンのまち」と呼ばれるところがあり、世界中のマジシャンが集まっていて、大会なども行われている。まちづくりの政策として、揖斐川町も他に類を見ない「何々のまち」を目指す、という発想を持つことが人口減少を抑制することにつながると感じている。（揖斐地区）
- 新しくなった岐阜市役所やその北側にあるメディアコスモスには、図書館やカフェがあることもあって、高校生も含めた若い人が多くいる。何らかの魅力があるようで、それぞれにとっての安らぎの場になっている。駐車場はあるもののあまり交通の便がよいところではないはずだが、それだけ活気があるということで、画期的な場所だと感じている。（揖斐地区）
- 町内には揖斐高校があるが、ここも特色のある高校にして存続させてほしい。揖斐高校がなくなると養老鉄道の廃線についても拍車がかかることになると思われるので、小学校・中学校・高校と含めてぜひ揖斐川町に存続させてほしいと考える。（清水地区）